

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2193400021		
法人名	株式会社エステートホーム		
事業所名	サロン・ド・フレール本巣 1F		
所在地	岐阜県本巣市文殊959-1		
自己評価作成日	平成28年12月29日	評価結果市町村受理日	平成29年4月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/21/i/ndex.php?act=on_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&ji_gyosyoCd=2193400021-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成29年2月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念である【人の和の繋がり】に基づき、入居者様やご家族様、職員、地域の和を大切にし毎日楽しく生活出来るように支援、介護を行っております。入居者様とご家族様の関係を繋げていけるようにご面会の案内や様子のお手紙などを送らせて頂き、情報共有しながら日々の生活に繋げています。また、ご利用者様と職員で地域のふれあいサロンや認知症カフェに参加させて頂き、グループホームでの活動や理解を促し、ご協力頂けるような関係作りに努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者は日頃より頻繁に声掛けし職員との会話の中から意見を聞き、事業所の運営に活かしている。職員は柔軟な考え方をもち、管理者や他の責任者を信頼し、率先して日々のケアに取り組んでいる。居室の表札が独特の絵画風の文字で示され、職員の利用者に対する想いが感じられる。1階のベランダから庭に出ることができ、中庭に畑があり、利用者は野菜作りに取り組んでいる。種まきや水やり、草取りから収穫までを自主的に利用者が行なっている。利用者の重度化や終末期についての対応は、いざという時の為に、対応や支援ができるように職員の研修を重ね、実技指導を実施している。地域の行事には積極的に参加し、ボランティアの受入れ、利用者の家族や親戚、友人等の面会も多く、地域との和や繋がりが深まっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設理念の「自由にありのままに自分らしく」ケア理念の「人の和の繋がりに」について毎朝職員の唱和しケアへの意気込みとして職員一丸となり支援を行っている。	利用者と家族、職員、地域の人々の和の繋がりを大切にしたい理念を作り上げている。理念に沿った介護を行なっているか、ユニットごとに毎朝確認し共有しながら実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩時の交流や地域行事・いきいきサロン・地域ボランティア受け入れなど行い交流を図っている。	いきいきサロンや認知症カフェに利用者と一緒に参加し、住民と交流している。織部祭や芋観桜花見会等の地域行事に積極的に参加し交流を深めている。お茶会(抹茶)、日舞や手品等の地域ボランティアを受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議やいきいきサロンなどで、毎回ご挨拶させて頂き地域の方へ認知症のご理解を推奨している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在施設内で取り組んでいる研修や取り組みをご報告し、改善点や伸ばしていくと良い事柄などを話し合い、研修や取り組みに生かしている。	事業所の近況や行事報告を行ない、参加メンバーから事業所に対しての運営や改善点についての意見をもらうようにしている。自己評価と外部評価結果の報告の説明をし、意見をもらう機会とし検討もしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	自治会長と電話連絡や回覧板などで地域行事を聞き参加させて頂ける行事などには参加させて頂き、運営推進会議にて市町村の役所(福祉敬愛課)の担当者様にご参加頂いている。	市の担当者に会議の案内などを手渡し、毎月の近況報告や制度改正による対応方法、申請代行などの相談をしている。月に1回の介護相談員の訪問を受け入れ、相談内容と気付いた点を文書で報告してもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関自動ドアは夜間施錠・昼間は解放し中庭への窓も鍵はかけず職員の見守りを強化することで自由に出入りできる環境を整えている。	身体拘束をしないため外部研修に出席し、事業所内でリスクマネジメントの一環として研修を行なっている。ベットから立ち上がる利用者の安全面を考慮しセンサーマットを使用しているが、同意や記録、解除に向けての取り組みなど職員間で話し合い、安全が担保できるように検討している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年2回は虐待防止の研修を行い、常に虐待のニュースや情報が入った時は自施設で起こらないよう度々月2回開催するユニット会議にて厳重周知を行っている。		

サロン・ド・フレール本巢

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	初級研修や中堅研修・各研修内で、成年後見制度や自立支援事業についての説明時間を設け周知活動を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約以前よりケアマネージャーと連携し契約説明時にも重要事項説明や契約書の説明と不安・疑問点をお聞きし対応を行っている。入居後も不安の無い様に、連絡は密にとらせて頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し月頭に確認し、各チーフや職員と対応策を話し合い改善に努めている。	利用者からは日常の介護の中で意見を聞いている。家族からは介護計画の作成時や面会時、電話での状況報告時に意見を聞いているが、意見や要望は限られた機会のみである。	利用者家族からの意見をさらに聞き、運営に反映させる為、敬老会や花見会など利用者家族との繋がりがあるので、事業所内で話し合い、家族会などでさらに意見を聞く機会を持つことを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	前期と後期に正職員とは別にパート職員へのヒヤリングや勤務状況を聞き、個々に気になった職員に出社・帰社時に呼びかけ交流を図るようにしている。定期的にユニットのラウンドをしている。	管理者は毎朝、昼、夕と各ユニットを回り、職員と会話する中で、意見を汲み取っている。正職員とは年3回の面談時に、パート職員からは随時ヒヤリングをして意見を聞き、運営に反映させている。レクリエーションを職員の担当とすることでやりがいを見出している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の要望を聞き自身の生活で無理のないような勤務形態や有給休暇を推奨し負担の無いような環境作りを行い、施設内備品や故障など速やかに改善するように取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修は毎月1回は実施し施設外へも実践者研修やリーダー・管理者研修参加を推奨し援助技術評価表を活用した技術向上を行っております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設見学を施設長と相談の上実施し自施設との違いや交友作りに取り組んでいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前訪問でご本人と面談を行い、思いを傾聴することで安心して頂けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前訪問で家族の思いを傾聴し、安心と信頼をして頂ける関係を築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様、ご家族様の思いを傾聴し、情報提供をしながら、より良いサービスを利用できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員が一方的に行ってしまうことがあるが、家事・炊事の共同作業などを推奨し取り組んで頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員はご本人様とご家族様の思いや要望をお伺いしながら、より良い関係が築けていけるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様同士がご近所同士だった方の会話の場の支援や、利用者様の親しい方との手紙のやり取りや友人の面会など御受入れさせて頂き次回来て頂けるような声掛けなど行っている。	利用者やその家族、友人との日常の会話の中から馴染みの人や場を把握している。友人・知人の面会が多く、知人宅を訪問したり、家族と一緒に墓参りに行ったりして、関係が途切れないように支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	あくまで個人の生活ペースに合わせて、日常生活において、利用者様同士が仲良く、楽しく関わり合えるよう、会話の支援や、空間を作るよう努めている。		

サロン・ド・フレール本巢

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された後でも電話で近況を伺い、ご家族様からの情報も頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様の思いや要望を、日常の表情や反応、会話の中からくみ取り、ユニット会議などで介護や支援内容を検討してサービスに反映させていけるように取り組んでいる。	利用者の出来ること、できないことを把握し、出来るであろうと思われることを勧めている。少しずつ出来るようになる中で、思いや意向をより多く把握するように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様、ご家族様との日々の会話や初回のアセスメントを通し、今までの生活やサービス利用の経過の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりのADL、出来ること、出来ないこと、生活パターンなどを把握し、日々の暮らしに沿って状況を把握しよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員がアセスメントを行い、ご本人様、ご家族様からの情報を含め、カンファレンスに於いて職員全員でのモニタリングを行い作成している。	面接記録を確認し利用者と家族の意向を聞き、担当者がアセスメントをして、介護計画を作成している。ユニット会議にて全員でモニタリングをし、3ヶ月毎に介護計画を見直している。状態等変化がある時はその都度、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ユニット会議にてご利用者様の様子や状態などお一人お一人検討させて頂き、一つ一つの取り組みを通して継続していけるサービス内容検討を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者様の日々の状況に応じて情報収集をし、新たなニーズにも応じられるよう努めている。		

サロン・ド・フレール本巢

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問介護、訪問歯科、マッサージ、理美容、ボランティアなどのサービスを取り入れ、地域の方と共に暮らして行けるよう取り組んでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当ホームの主治医による月2回の訪問診療があり、必要時は他病院への受診も支援している。	協力医、歯科医、眼科医には定期的な訪問診療がある。かかりつけ医への受診は職員が付き添っている。家族へは事前に受診の連絡をして、受診後の結果を家族と職員間で共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は週一回の訪問看護師に利用者様の心身状態や異常、気づきを伝え、相談し、適切な看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には情報提供を十分に行い、面会時にも病院関係者との情報交換をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に指針をもとに説明を行い、必要に応じてご家族様と話し合いの場を持つようにしている。 職員の看取り介護研修を行っている。	事業所で看取りを出来るように準備をしているが、まだ事業所での実績はない。重度化や終末期に向け、チーフによる実技指導や研修を行なっているが、職員は夜間でのケアに不安があり、医療面でのサポートが重要と感じている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故対応マニュアルで研修を行っている。 応急処置については訪問看護師より指示を仰いでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の指導のもと、定期的に訓練を実施し、地域の方の協力を運営推進会議でお願いしている。	火災、風水害に対する避難訓練が重要ととらえ、年4回の避難訓練を夜間想定を含め実施している。非常用の備蓄品は年毎に見直している。地域の方々へ参加を呼び掛けているが、まだ参加までには至っていない。	地域の方々への呼びかけを引き続き行ない、避難訓練への参加を実現させていただきたい。地域の方々に何を協力していただくか、の話し合いを期待したい。

サロン・ド・フレール本巢

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳を大切にし、誇りやプライバシーに配慮した言葉づかいや言葉かけの対応に努めている。	一人ひとりを尊重し、利用者が望む声かけをしている。トイレ等の見える場所であってもプライバシーに配慮した、しつらえをしている。排泄時には外から見えないようにドアやカーテンは必ず閉め、入浴時には同性介護となるように支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の能力に応じた、選択が出来るように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にし、一日を過ごして頂けるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人様の好きな服を選んで着ていただいている。櫛を常備されている方は、洗面所で整髪出来るよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事のメニュー、おやつなど好みのものをお伺いしている。 テーブル拭きや食器拭き等を一緒に行えるよう支援している。	献立は利用者の希望を聞き冷蔵庫の中を確認し、その都度決めている。畑で一緒に作った野菜を使い、皮むき、皿洗いなど利用者ができる事を出来る範囲で参加している。利用者はその日その日の味付けを楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの心身状態に合わせ、食事量、食事形態を考え対応している。食事量、水分量は毎日チェックしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりに合った声掛けと介助を行い、月2回の訪問歯科によるケア、治療もやっている。		

サロン・ド・フレール本巣

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄チェック表を元に、一人ひとり自立に向けた、声掛け・誘導・介助を行っている。	トイレでの排泄を基本とし、夜間のみポータブルトイレを使用する利用者もある。毎日の散歩後や2時間毎のトイレ誘導で、オムツの利用者がリハビリパンツへ、さらにパットへと改善し、自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維を多く取れるよう工夫したり、夕食時にヨーグルト提供している。 体操や運動の支援もしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人様の要望に沿って入浴していただけるよう努めている。	入浴は週2、3回を基本とし、午前中に入浴している。利用者の希望により、時間に関係なく毎日でも可能である。状態により機械浴もある。声掛けしても入浴を希望されない利用者も下呂温泉風の入浴剤に興味を持ち、入浴された事例もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や要望に応じて休息をしていただいている。 夜間の照明も個々の要望に応じた対応を努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬を職員全員が把握し支援している。症状の変化により薬の変更や追加がある場合は申し送りに依り、確認と周知をしていく。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一日を楽しく過ごしていただけるよう、利用者様みなさんで出来ることを支援している。 洗濯物をたたんでいただいたり、食器拭き等を行っていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年間行事にて外出する機会を作っている。 日常的には近くの神社や、ホーム周辺の散歩等に出かけられるよう努めている。	近くへの散歩、近隣のスーパーマーケットや書店での買物は職員が付き添い、日常的に外出を行なっている。年間行事として、月毎に担当職員を決め、計画から実施までを任せている。花見、バラ園、コスモス畑、紅葉、ファミリーレストラン等と一緒にしている。	

サロン・ド・フレール本巢

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は職員で行っているが、日常的に使えるよう配慮している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があれば電話をしていただき、家族との連絡が取れるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日、掃除をして清潔を心掛けている。リビングにイベントの写真などを貼り、皆さんと一緒に見て、思い出されている。季節に合わせて、壁面の飾りなども工夫している。	リビングには利用者の作品、季節の花、レクリエーションの写真などが飾られている。ソファが置かれ休憩に利用されている。バルコニーから庭に出られるように工夫され、庭には畑がある。種まきから水やり、草取り、収穫までを利用者が自主的に行なっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席、ソファ席などと自由に移動でき、気の合う方同士で楽しくレクリエーションしたり、お話を楽しんだりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様の協力をいただき、家具、テレビ、冷蔵庫等、使い慣れたものを持ってきていただいている。	ベッドとタンスは事業所の備品で、利用者の好みにより、テレビ、冷蔵庫、時計、写真などさまざまな物を配置し、居心地良く過ごせるようにしている。冷蔵庫にジュースを入れ、友人との面会を楽しんでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入り口の名札、トイレの案内表示、手すり、洗面所の高さの調節をし、一人ひとりの身体機能の状態に合わせた設備や環境作りができるよう工夫している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2193400021		
法人名	株式会社エステートホーム		
事業所名	サロン・ド・フレール本巣 2F		
所在地	岐阜県本巣市文殊959-1		
自己評価作成日	平成28年12月29日	評価結果市町村受理日	平成29年4月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.mhl.w.go.jp/21/i.ndex.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kanitrue&aj.gvosyoCd=2193400021-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成29年2月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

本年はケア理念の再確認を行い、施設長より職員を集めた理念の細かな周知活動を実施し、朝の申し送りでの唱和を通じて職員へ理念を念頭にいた介護の実践が行うことができた。
加えて地域への活動参加にも力をいれ施設一台イベントの敬老会に地域住民参加依頼や、地域のお花見へのゲスト参加、ふれあいサロン・認知症カフェへの参加といった新たなステージへの進出と基盤作りが行え地域密着としての本文通りの活動が行えた。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。〕

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設理念の「自由にありのままに自分らしく」ケア理念の「人の和の繋がり」について毎朝職員の唱和しケアへの意気込みとして職員一丸となり支援を行っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	いきいきサロンや認知症カフェ・地域のお祭りなどご参加させて頂いている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議やいきいきサロンなどで、毎回ご挨拶させて頂き地域の方へ認知症のご理解を推奨している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在施設内で取り組んでいる研修や取り組みをご報告し、改善点や伸ばしていくと良い事柄などを話し合い、研修や取組みに生かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	自治会長と電話連絡や回覧板などで地域行事を聞き参加させて頂ける行事などには参加させて頂き、運営推進会議にて市町村の役所(福祉敬愛課)の担当者様にご参加頂いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関自動ドアは夜間施錠・昼間は解放し中庭への窓も鍵はかけず職員の見守りを強化することで自由に出入りできる環境を整えている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年2回は虐待防止の研修を行い、常に虐待のニュースや情報が入った時は自施設で起こらないよう度々月2回開催するユニット会議にて嚴重周知を行っている。		

サロン・ド・フレール本巣

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	初級研修や中堅研修・各研修内で、成年後見制度や自立支援事業に関して施設長より時間を設け説明周知を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約以前よりケアマネージャーと連携し契約説明時にも重要事項説明や契約書の説明と不安・疑問点をお聞きし対応を行っている。入居後も不安の無い様に、連絡は密にとらせて頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し月頭に確認し、各チーフや職員と対応策を話し合い改善に努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	適時ヒヤリングや管理者のユニットラウンドを通じて職員の不安や悩みに耳を傾けるように活動を行っております。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の要望を聞き自身の生活で無理のないような勤務形態や有給休暇を推奨し負担の無いような環境作りを行い、施設内備品や故障など速やかに改善するように取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修は毎月1回は実施し施設外へも実践者研修やリーダー・管理者研修参加を推奨し援助技術評価表を活用した技術向上を行っております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設見学を施設長と相談の上実施し自施設との違いや交友作りに取り組んでいる。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前訪問でご本人と面談を行い、思いを傾聴することで安心して頂けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前訪問で家族の思いを傾聴し、安心と信頼をして頂ける関係を築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様、ご家族様の思いを傾聴し、情報提供をしながら、より良いサービスを利用できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員が一方的に行ってしまうことがあるが、家事・炊事の共同作業などを推奨し取り組んで頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員はご本人様とご家族様の思いや要望をお伺いしながら、より良い関係が築けていけるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様同士がご近所同士だった方の会話の場の支援や、利用者様の親しい方との手紙のやり取りや友人の面会など御受入れさせて頂き次回来て頂けるような声掛けなど行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	あくまで個人の生活ペースに合わせて、日常生活において、利用者様同士が仲良く、楽しく関わり合えるよう、会話の支援や、空間を作るよう努めている。		

サロン・ド・フレール本巢

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された後でも電話で近況を伺い、ご家族様からの情報も頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様の思いや要望を、日常の表情や反応、会話の中からくみ取り、ユニット会議などで介護や支援内容を検討してサービスに反映させていけるように取り組んでいる。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様、ご家族様との日々の会話や初回のアセスメントを通し、今までの生活やサービス利用の経過の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりのADL、出来ること、出来ないこと、生活パターンなどを把握し、日々の暮らしに沿って状況を把握しよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員がアセスメントを行い、ご本人様、ご家族様からの情報を含め、カンファレンスに於いて職員全員でのモニタリングを行い作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ユニット会議にてご利用者様の様子や状態などお一人お一人検討させて頂き、一つ一つの取り組みを通して継続していけるサービス内容検討を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者様の日々の状況に応じて情報収集をし、新たなニーズにも応じられるよう努めている。		

サロン・ド・フレール本巢

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問介護、訪問歯科、マッサージ、理美容、ボランティアなどのサービスを取り入れ、地域の方と共に暮らして行けるよう取り組んでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	掛かりつけ医師の往診を月2回来ていただきその他必要な医師の往診受け入れや、以前からの関係医師の往診などで関係作りを行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は週一回の訪問看護師に利用者様の心身状態や異常、気づきを伝え、相談し、適切な看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には情報提供を十分に行い、面会時にも病院関係者との情報交換を実施し退院の希望が出てきた段階でカンファレンスの開催を提案し戻られた際のサービスへの反映を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に指針をもとに説明を行い、必要に応じてご家族様と話し合いの場を持つようになっている。 職員の看取り介護研修を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故対応マニュアルで研修を行っている。 応急処置については訪問看護師より指示を仰いでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の指導のもと、定期的に訓練を実施し、地域の方の協力を運営推進会議でお願いしている。		

サロン・ド・フレール本巢

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけ等にも配慮を行うと共に、入浴時や排泄時などカーテンやタオルなど用いての羞恥心配慮や可動域を用いた一部介助を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の能力に応じた、生活リハビリやレクなどに参加頂ける声掛けを通じて自己決定を促しを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にし、一日を過ごして頂けるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人様の好きな服を選んで着ていただいている。櫛を常備されている方は、洗面所で整髪出来るよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事のメニュー、おやつなど好みのものをお伺いしている。 テーブル拭きや食器拭き等を一緒に行えるよう支援している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの心身状態に合わせ、食事量、食事形態を考え対応している。食事量、水分量は毎日チェックしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりに合った声掛けと介助を行い、月2回の訪問歯科によるケア、治療も行っている。		

サロン・ド・フレール本巢

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄チェック表を元に、一人ひとり自立に向けた、声掛け・誘導・介助を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維を多く取れるよう工夫したり、夕食時にヨーグルト提供している。 体操や運動の支援もしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人様の要望に沿って入浴していただけるよう努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や要望に応じて休息をしていただいている。 夜間の照明も個々の要望に応じた対応を努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬を職員全員が把握し支援している。症状の変化により薬の変更や追加がある場合は申し送りに依り、確認と周知をしていく。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一日を楽しく過ごしていただけるよう、利用者様みなさんで出来ることを支援している。 洗濯物をたたんでいただいたり、食器拭き等を行っていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年間行事にて外出する機会を作っている。 日常的には近くの神社や、ホーム周辺の散歩等に出かけられるよう努めている。		

サロン・ド・フレール本巣

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は職員で行っているが、日常的に使えるよう配慮している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があれば電話をしていただき、家族との連絡が取れるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日、掃除をして清潔を心掛けている。リビングにイベントの写真などを貼り、皆さんと一緒に見て、思い出されている。季節に合わせて、壁面の飾りなども工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席、ソファ席などと自由に移動でき、気の合う方同士で楽しくレクリエーションしたり、お話を楽しんだりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様の協力をいただき、家具、テレビ、冷蔵庫等、使い慣れたものを持ってきていただいている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入り口の名札、トイレの案内表示、手すり、洗面所の高さの調節をし、一人ひとりの身体機能の状態に合わせた設備や環境作りができるよう工夫している。		